

社会福祉法人 神戸いのちの電話 事業案内 2024 年度事業報告・2025 年度事業計画

ごあいさつ

この数年、パンデミックを引き起こした新型コロナウイルス COVID-19 感染も、世間では終息したかのような状況となりました。神戸いのちの電話も、感染症を気にしながらコロナ前を超える諸活動に戻り、さらに新たな試みに取り組む日常を過ごしています。

2024 年度も、兵庫県、神戸市をはじめ多くの支援団体の皆様、維持会員・賛助会員の皆様、また相談員、研修委員、役員、評議員の皆様から、私どもの活動に対して、それぞれのお立場で多大なご支援、ご奉仕、ご協力を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

2024 年の年間自殺者数は全国統計で 20,320 人(前年比 1,517 人減)であったという報告がありました。統計開始以降 2 番目に少ないとのことではありますが、女子中高生の増加が目立つ結果であったとされており、世代を超えて悩みは様々に深刻であることが伺えます。

2024 年度の神戸いのちの電話は年間 14,513 件の電話相談を受けました。その数は、昨年より 927 件増加し、2 年続けて前年より 1,000 件ほど多い電話を受けたことになります。この社会に多くの不安に襲われた方々がおられること、そして相談員の皆さんの努力により、その方々の声を電話という手段によって受け止めたことを示しています。

神戸いのちの電話はこのように大きな社会的意義を持つ活動でありながら、継続されるいくつかの課題をもって、日々活動を続けています。目標である 24 時間 365 日の電話受信の実現には、まだまだクリアすべき課題がありますが、多くの議論と実現への熱意によって、2025 年度より毎金曜日の深夜帯での電話相談の拡充を始めています。今後、さらなる拡充をめざして相談員の発掘、養成と定着に努力を続けていきます。

また、若者の電話離れ、SNS への依存という現象を受け、青少年のネット相談という需要への対応も継続課題です。そして、財政の健全化は依然として私たちの大きなテーマです。

このような課題を持ちつつも、長く大切にしてきた理念と活動を継承し、生きづらさの中を生きる多くの人々に寄り添うことができれば、と願っています。

神戸いのちの電話は皆様のお支えにより、開局 50 周年に向かって活動を続けることができています。今後もこの活動の維持発展のために、皆様の温かいお励ましとご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人神戸いのちの電話
理事長 水野 雄二

2024 年度事業報告と 2025 年度事業計画

I 2024 年度 活動報告

1. 電話相談活動

- ① 相談員の参加増により、相談受信件数がコロナ以前の数をさらに上回ることができた。総受信数 14,513 件、内訳として通常 12,853 件、フリーダイヤル(毎日 10 日及び 9 月、3 月の連続 168 時間)760 件、毎日フリーダイヤル 900 件であった。
- ② 次年度から金曜日すべての深夜帯を実施することになった。
- ③ 日頃の活動に必要な「ハンドブック」の改訂にあたっては、できるだけ相談員の意見を反映したものになるように作成、完成した。
- ④ 2024 年 4 月 1 日の相談員在籍数は 148 人(男性 20 人、女性 128 人)であった。

2. 相談員の研修

- ① 年間 10 回の継続グループ研修の中で、いのちの電話の基本理念や傾聴についての講義、ワーク等、研修委員を座長としたメンバーで学習の機会をもった。
- ② 全体研修では、「うなずき」をテーマにした事例研究を 6 月に、10 月には自殺予防フリーダイヤルへの対応について、少人数でのロールプレイなどを通じて学び合った。またハラスメントについても基礎的知識を学び、自分自身を振り返る機会ともなった。

3. 相談員養成講座

- ① 2023 年度からの 39 期受講生 9 人が、講義、ロールプレイ、電話実習等、2 年間の研修を修了し相談員として認定された。
- ② 2024 年度からの 40 期受講生は、9 人が後期(Ⅲ期)に進級し 2 年目を迎えた。

4. 公開講座

- ① 5 月から 7 月にかけて 8 回行われた連続公開講座は、40 期相談員養成講座応募要件にもなっており、「生きづらさの中を生きる」をテーマに 343 人が参加した。
- ② 2 月に行われた厚生労働省・自殺防止対策事業として、東京いのちの電話の末松渉理事長を迎えて講演会を開催した。テーマ「傾聴から学ぶ人との関わり」について、参加者の対人関係への関心の高さがみられた。

5. 広報活動

- ① 広報誌「神戸いのちの電話」86、87 号を発行し支援いただいている団体、個人などに送付、関係団体には配架の依頼も進めた。学校へのポスター配布も継続した。
- ② 「いのちの電話」の活動の周知や財政協力の 1 つとして、9 月には神戸聖隷福祉事業団主催の「おいでやすカーニバル」にバザー出店。また、3 月には兵庫県立尼崎の森中央パークセンターでのフェスタに参加、家族連れを中心とした参加者に活動紹介のリーフレット等を配布し広報活動を行った。

6. その他の活動

- ① 「日本いのちの電話連盟」に所属する全国のセンターが参加する研修会や会議がブロックごとに行われ、学びと共に交流の場にもなった。今年度はハラスメント(後に

「難しい電話」と呼称を変更)に関するアンケート調査を全国の相談員に実施した。主に相談員の安全と尊厳を守るため、今後もフィードバックを含め継続して取り組んでいく。

- ② 毎日新聞社大阪社会事業団の助成により講演会を実施した。7 月にはトラウマケアに関わる精神科医の桑山紀彦氏を、11 月には難民キャンプでの生活を余儀なくされた経験をもつ永遠瑠(とわり)マリールイズ氏にお話しいただいた。
- ③ 行政や団体等の会議、フォーラムにも積極的に参加した。
- ④ 組織としての運営が円滑に進むように、理事会、評議員会をはじめ各委員会や部会などを開催した。

II 収支決算報告

2024年度 収支決算書		単位:円
収入	科目	決算額
	受講料(養成講座・公開講座)収入	776,500
	補助金収入	9,423,949
	寄付金収入	2,771,701
	維持・賛助会費収入	2,174,560
	その他の収入	711,172
	収入合計	15,857,882
支出	人件費	5,240,328
	事業費	11,227,618
	継続研修費	2,198,440
	公開・養成講座費	1,451,614
	研修費	265,334
	交通費	2,726,880
	通信・郵便運搬費	1,066,421
	印刷製本・図書費	1,032,976
	消耗品・器具備品費	786,181
	活動維持費	1,453,799
	相談員活動費	245,973
	事務費	198,000
	支出合計	16,665,946
	収支差額	△808,064

貸借対照表			
2025年3月31日現在 (単位:円)			
資産の部		負債の部	
流動資産	14,427,286	流動負債	1,505,898
現金預金	7,159,337	未払金	1,336,164
未収入金	7,267,949	前受金	75,000
固定資産	13,395,339	預り金	94,734
基本財産	10,000,000	固定負債	0
定期預金	10,000,000	負債の部合計	1,505,898
その他の固定資産	3,395,339		
器具及び備品	422,189	純資産の部	
ソフトウェア	73,810	基本金	10,000,000
備品等購積立資産	2,000,000	備品等購積立金	2,000,000
周年行事等積立資産	899,340	周年行事等積立金	899,340
		次期繰越活動増減差額	13,417,387
		(内当期活動増減差額)	△1,247,842
		純資産の部合計	26,316,727
資産の部合計	27,822,625	負債及び純資産の部合計	27,822,625

Ⅲ 2025 年度活動計画

様々に社会状況が変化する中であっても、常にいのちの電話の原点を大切に、共に支え合う中で、365 日 24 時間の活動をめざします。

1. 電話相談活動を大切にする

一人でも多くの相談者とつながることができるよう、金曜日の深夜帯受信をはじめ、受信件数増に向けて取り組む。相談員増になるような公開講座等、魅力的な企画づくりに努める。

2. 研修体制の充実をはかる

相談員の心のケアやサポート等、活動への意欲がより充実したものになるよう、グループでの継続した学習やテーマごとの研修等で学びを深める。また、相談員が対応に苦慮する電話等、通常の活動の中での課題にも迅速に対応する。

3. 相談員相互の理解を図る

相談員の活動が持続可能なものになるよう、交流等を通じて関係性を深める。

4. 諸団体等との連携を深める

行政や諸団体、全国のいのちの電話等ともつながり、お互いに情報交換する機会を増やす。

5. 活動への理解を広げ体制づくり取りに組む

理解者を増やすために広報を強め、財政基盤を強化し事務局体制の充実をめざす。

Ⅳ 収支予算

2025年度 収支予算書		単位:円
収入	科目	予算額
	受講料(養成講座・公開講座)収入	800,000
	補助金収入	9,800,000
	寄付金収入	2,500,000
	維持・賛助会費収入	1,850,000
	その他の収入	551,000
	収入合計	15,501,000
支出	人件費	5,262,000
	事業費	10,041,000
	継続研修費	1,800,000
	養成・公開講座費	1,150,000
	研修費	200,000
	交通費	2,800,000
	通信・郵便運搬費	900,000
	印刷製本・図書費	800,000
	消耗品・器具备品費	710,000
	活動維持費	1,431,000
	相談員活動費	250,000
	事務費	198,000
	支出合計	15,501,000

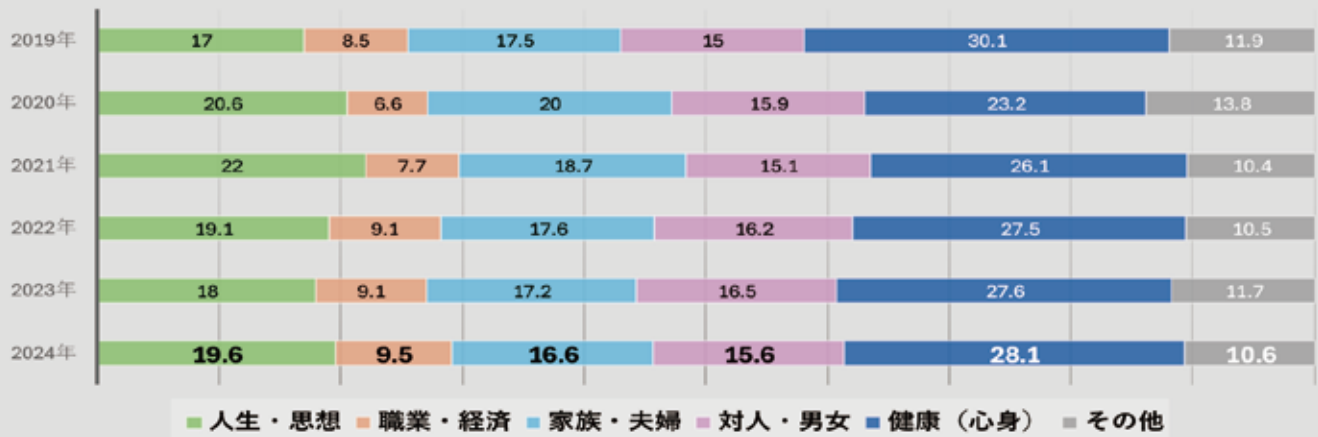
2025年度 役員名簿	
<理事>	
井出 浩	
井上 真二	
阪田 憲二郎	
中道 京子	
宗行 孝之介	
濱 浩一	
福井 康代	
<監事>	
上杉 徹	
山根 泉	
<評議員>	
石川 益子	
石脇 智広	
上谷 佳宏	
大橋 善久	
川崎 厚志	
南部 真理子	
飛田 雄一	
松森 正樹	
安行 英文	
2025.6.17改選	

V その他



年間自殺者数は減少傾向にある一方で、受電件数は一定数を保っている。
また2024年は女性からの受電件数が男性の件数を1,000件ほど上回った。

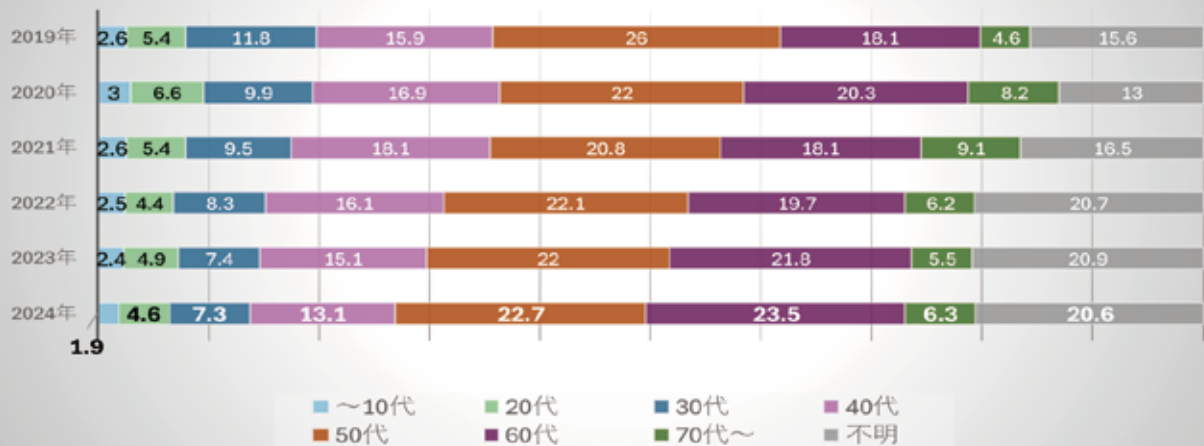
相談内容の割合



「人生・思想」と「健康（心身）」が前年に比べ、若干増えている。

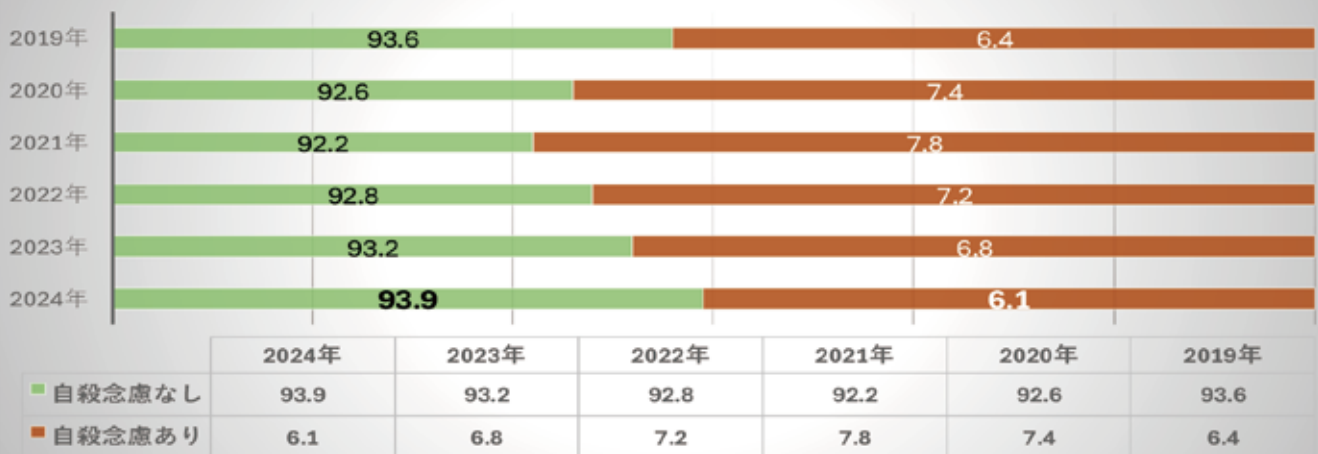
「人生・思想」では孤独が、また「健康（心身）」ではうつやその他精神疾患での内容が多い。

年代別割合



60代の割合が増えている一方で、10～30代はやや減少傾向にあり、
電話をかけない世代をどう受け止めていくかが今後の課題とを感じる

相談電話での自殺念慮の有無



自殺念慮者数は、2024年度はコロナ禍以前に戻りつつある

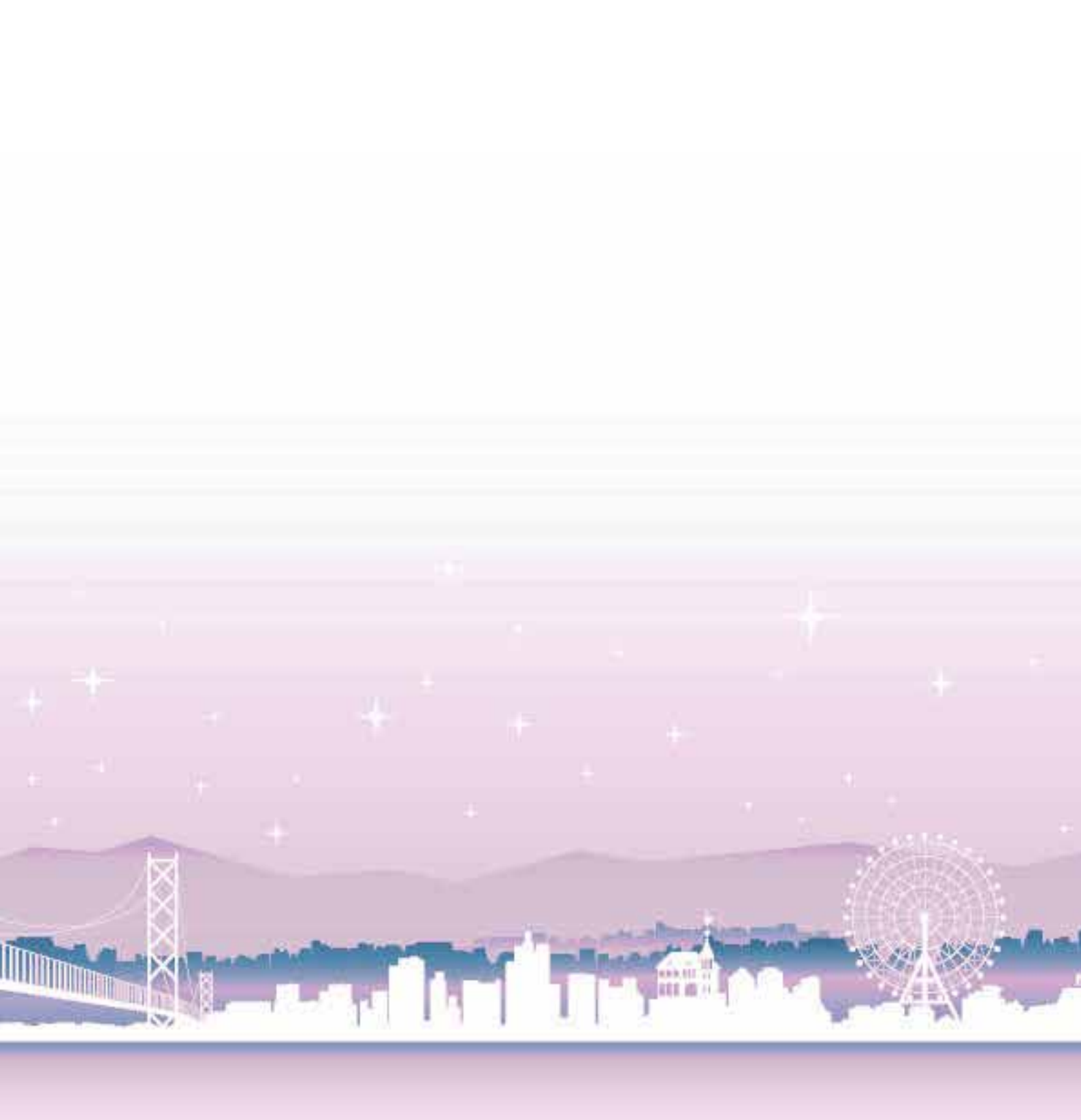
**「神戸いのちの電話」の活動は
みなさまの温かいご支援に支えられています。**

神戸いのちの電話は、今、孤独の中で悩みを抱え助けを求めている人の心に電話を通して寄り添い、「あなたを決してひとりにしない」との思いで、日々活動しています。主となる相談活動は、多くのボランティア相談員に支えられていますが、電話相談活動を円滑に運営するためには、年間1000万円を超える経費が必要です。兵庫県や神戸市をはじめさまざまな団体からの補助、寄附金、維持会費や賛助会費等、ご支援いただいているすべてのみなさまに心から感謝申し上げます

研修委員		(50音順)
井出 浩	浅野神経内科クリニック 精神科医	
岩崎 久志	流通科学大学 公認心理師 臨床心理士	
榎本 千春	社会福祉法人すいせい 公認心理師 臨床心理士	
岡田 由美子	たかみやこころのクリニック 公認心理師 臨床心理士	
阪田 憲二郎	神戸女子大学 臨床心理士 精神保健福祉士	
清水 智子	関西保育専門福祉専門学校 公認心理師 臨床心理士	
都村 尚子	関西福祉科学大学大学院	
戸田 みな子	カウンセリングオフィス神戸同人社 臨床心理士	
南部 真理子	神戸市健康局 臨床心理士	
長谷川 泉	神戸親和大学 公認心理師 臨床心理士	
原口 美佐代	大阪バイオメヂカル専門学校 社会福祉士 精神保健福祉士	
藤井 薫	社会福祉士 精神保健福祉士	
本多 雅子	元神戸臨床心理の会	
吉岡 由美	武庫川女子大学 公認心理師 臨床心理士 精神保健福祉士	
後援会		
会長	雀部 昌吾(バンドー化学株式会社)	
副会長	中道 基夫(公益財団法人神戸YMCA)	
世話人	高嶋 良平(高嶋酒類食品株式會社)	
	寺本 督 (株式会社淡路屋)	
	藤尾 益也 (株式会社神明)	

**** 賛助会員(団体・法人のみの掲載) ****

サンヨー環境株式会社 医療法人尚生会 村田建設株式会社 永安心療クリニック いずみ心療クリニック 株式会社淡路屋 兵庫兵庫食品株式会社 東光碍子株式会社 高嶋酒類食品株式会社 長手ホールディングス株式会社 株式会社オゾネ 兵庫県精神神経科診療所協会 神戸信用金庫 バンドー化学株式会社 株式会社トーアコーポレーション 兵庫トヨタ自動車株式会社 日本生命保険株式会社神戸支社 株式会社トヨタレンタリース兵庫 (順不同)



発行年月	2025 年 6 月
発行者	社会福祉法人 神戸いのちの電話
発行責任者	理事長 水野雄二
住所	〒650-8691 神戸支店郵便私書箱 1103 号
電話／FAX	078-371-4405／078-371-4355
E-mail	kind4343@viola.ocn.ne.jp
公式 Web サイト	https://kobe-lifeline.org